

# Cotton Up



こっとなあつぷ Vol.114



+



おやつとゲームで  
見付けた、  
有意義な時間は、  
3・4ページ!

私の作る  
おやつ作り5ページに  
ご紹介しました。  
ヘルシーおかき  
ぜひ、ご覧下さい!



## 目次

- ・「伝える」 理事長 佐藤哲也 <2 ページ>
- ・「TDSN37 ～おやつ作りから見付けた・有意義な時間～」 <3～5 ページ>
- ・新任紹介 <5 ページ>
- ・後援会のご案内・2015 年度決算報告 <6 ページ>
- ・編集後記（編集部） <6 ページ>

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会  
代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 2-11-6-109  
(毎月1回15日発行) 購読料1部 15円

## 伝える

理事長 佐藤哲也

「伝える」ということについて考えてみたいと思います。「伝える」は、「言葉などで知らせる」、「あるものを受け継いで次の代に渡す」、「よその土地から文物などを持ってくる」、「熱・音などが、一方から他方へ移るように仲だちをする」などの意味があります。最近、マスメディアから政界、スポーツ界、芸能界などの好ましくない様々なニュースがしきりに飛び込んできて驚かされています。伝えるということは、伝える相手がいるわけです。そして、不特定多数の人々へ、大量の情報が伝えられてきます。しかし、情報を受け取る側としては、必要としない情報は読まない、見ない、聞かないなどという手段をとることで、ある程度情報の流入をコントロールすることができます。

一方、情報を伝える側に立った場合は、状況が変わります。自分が伝えた情報が相手に正しく伝わったのかどうか、不安になる場合があります。その対応としては、相手に対し丁寧に伝えるように内容を整理し、何を伝えたいかを見極めることが重要になります。

私達に関わりの深い自閉症の方の基本的な特徴のひとつに、「コミュニケーションの障害」があります。その中には、言葉の理解や言葉の表し方の困難さも含まれます。彼らが自分の思いを相手に伝えることが難しいのは、自分の思いを自覚できていない段階から、伝えたいことは分かっているのにうまく伝えられない段階まで様々あると言われています。私達が言葉で何かを伝えたい時は、「静かな声で」、「具体的に」、「簡潔に」、そして「端的に」ということを心がけたいものです。とは言いながら、我が家では、忙しい時などに息子から同じことを何十回も確認されたりすると、しだいに返事が大きくなったり、いい加減に返事をしてしまうことがあります。また、こちらの口数が多くなり、よけいに混乱させてしまうこともあります。

「伝える」という言葉のもう一つの意味である、「あるものを受け継いで次の代に渡す」ということを考えてみます。この意味からまず頭に浮かぶことは、人はいずれ人生のゴールを迎える、そして、次の世代へバトンを渡す時期が必ずやってくるということです。このバトンパスは、親に代わって自分が行う場合もありますし、自分自身の場合もあります。そして、自分の万一の事態に備えて、子どもを誰かに託そうとする場合もあります。支援を必要とする我が子が、親亡き後に少しでも困らないで、自分らしく生活することができるように、後を託す人へ子どもの状況や支援に対する要望などを一冊のノートに書き残し、伝える、エンディングノート、すなわち引継書というものがあります。既に始めている方もいらっしゃると思いますが、最初から完璧なものを目指さず、楽な気持ちで書きたいところから、書きたいことだけを書いていきます。わからないことは誰かに相談してもよいでしょう。また、年に1度は見直しをして手を加え、少しずつまとめていけばいいと思います。

昔、家庭では、家族が食卓を囲みながらいろいろな話を交わすなかで、自然と家族間の引き継ぎがなされていたように思います。私は両親を亡くした後、「あのことを聞いておけばよかった」と悔しい思いをしたことが何度かあります。その反省から、私もエンディングノートに気がついたことを少しずつまとめています。「次の代に渡す」ということは、大事なことです。第三者に渡すとなれば尚更です。我が子の将来のため、一度、自分自身の頭の中を整理し、「伝える」手段を検討してみてもはいかがでしょうか。

## おやつ作りから見付けた・・・有意義な時間

これまでこっとなあっぱの紙面では、利用者さんの様々な取り組みについて、ご紹介してきました。わたげで何か取り組みを行うときに考えることは「こんなことが自分で出来るようになったら、ご本人がより自信を持って、豊かに過ごせるのではないか」ということです。この考えを基に、一人ひとりの日中活動や家庭生活の様子に合わせて、様々な取り組みを行っています

今回は、お二人の方が取組んでいる、おやつ作りの様子をご紹介したいと思います。

取り組みを行うにあたって、基本的には自立して行う事を目標にしていますが、今回のお二人は少し視点を変えて、「落ち着いた環境の中で、誰かと一緒に有意義な時間を過ごす」ことを目的の一つとして取組んでいます。

勿論、自分で出来ることは自分で行いますし、職員はどうすればご本人が出来るようになるかを考えて工夫をします。しかし調理となると、熱を加えることが必要な場面があり、入れ物や食材が熱くなることもあります。安全面への配慮を考えると、自立して行うことを目標にするとできない方もいます。また、熱を加えないで行えるもの、となると、選べる範囲は狭まってしまいます。

でも、誰かが必要な時には助けてくれることを前提にしていれば、出来るところは自分で、出来ないところは手伝ってもらいながら、共同作業で美味しいものを作ることが出来ます。そんな視点から今回のお二人の取り組みは始まりました。

緊張感のある作業場から離れ、こぢんまりとした部屋の中で、職員と二人、ゆったりと調理を楽しむ様子をお届けしたいと思います。

海江田笑子

### クッキー作りとゲームをしよう！！



今回は、相手の表情を見ながら心（気持ち）を通わせる機会を設けることで、航太さんにとって有意義な時間になって欲しいという願いを込めて、対人とのコミュニケーションを、おやつ作りとゲームの中で機会を設けました。航太さんは普段からご家族の優しさに包まれ、家族全員から声を掛けて貰う機会があります。しかし、作業を中心に行うわたげでは、職員が作業の進捗状況を確認するために航太さんに近寄り、「良く出来ています」と評価の言葉を掛ける毎日です。また、航太さんの方からも職員の元に近寄って来る場合もあります。その場面は昼食後に食べたメニューの確認する時と、お茶を職員に注いで欲しいと要求する時です。

航太さんの性格は穏やかで、行動のペースも全体的にゆっくり。ご家庭でもわたげでも焦らせる行動は控え、わたげでは航太さんの集中を乱さないように声掛けを出来るだけ控えながら作業や活動を見守っています。

私が航太さんとコミュニケーションを図るのに、一番大切に想っていることは表情です。言葉の意思疎通が少ない航太さんとの交流には、表情と単語でいこう！と決めていました。そして、航太さんが職員の顔を覗き込みながら満面の笑顔で昼食のメニューを確認している表情を普段から引き出すことこそが支援に繋がっていくと感じていました。そのため、取り組みの内容は航太さんが興味を示す「食」に目を付け、相手の声、身振り、匂い等の情報を伝えるのには、大勢いる環境の作業室よりも落ち着いた空間でおやつ作りと、待ち時間には職員とゲームを行うことに決定しました。

おやつ作りは1ヶ月に1回のペース。おやつの内容は、掻き混ぜる、捏ねる、注ぐ、形を作るなどの工程を試す意味で、2回ずつ同じ種類のおやつを作り、1年間で6種類作りました。その中で、航太さんが表情も良く、行動の取っ掛かりも良かったのはクッキー作りの生地を混ぜる時と、生地を形成する時でした。何だか、以前にも経験した事がありそうな印象でした。もしかしたら、学生時代にねんどなどで捏ねたり、形を使ったことがあったのでしょうか……。思わず、「楽しそう」と声を掛けるほど、ニヤリと笑みを浮かべていました。



**航太さん、この表情を待っていました！！**

次に、おやつを作っている間には、出来上がりまでに時間を要することがあります。その間には、以前に取り組んだゲームを活用し、待ち時間を職員と過ごすことにしました。ゲームを通してルールや順番を理解して対人と余暇を行い、よりコミュニケーションを図ろうと計画しました。ゲームのルールといっても勝ち負けはありません。順番に動物カードをめくり、同じ絵柄の動物を磁石の付いたゲーム用の釣り竿を使って釣り上げるゲームや、色カードを使って同じ色のビーズを棒に挿していくゲーム。どちらもゲームの共通点は本人が今まで経験してきたことのある写真や色を使ったこと。そして、それを職員が言葉に出すことで、航太さんは職員の口元を見ながら同じ言葉を発しようと真似る行為もコミュニケーションであると感じています。あるお話しの中に、自閉症を伴う方は、相手の表情全体は見ておらず一部を見て笑っている、怒っている、と判断することを聞いたことがあります。まさに私の顔の表情よりも、口元の動きを良く見て声を出そうとする姿です。そして興味を感じて下さっているからこそ、職員と同じ言葉を声に出そうとしているのではないかと捉えられる時間でした。



今回の取り組みの中で、果たして航太さんが有意義な時間と感じたのかは分かりません。航太さんが「楽しい」「ゆっくり出来た」と声に出すことが出来れば、職員も楽しめたのかと感じる訳ではありますが……。それは、それ。良いではないですか。航太さんが職員と一緒におやつを作り、ゲームを行った時の表情が笑顔であれば、相手も嬉しい。それは、きっと心を通わせたコミュニケーションであったと言えたのではないのでしょうか。

これからも、色々なことに取り組み、笑顔溢れる有意義な時間を見つけていきたいと思います。

高橋智子



## たんぽぽの郷後援会のご案内

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

▼ 年会費	個人会員	1口	3,000円
	団体会員	1口	10,000円

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座番号 00240-9-17474

郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会



### 《2015年度 決算報告》

たんぽぽの郷 後援会

昨年度、皆様からいただきました会費については、下記のとおりのお収支でしたのでご報告申し上げます。

(自2015年4月1日～至2016年3月31日)

〈収入の部〉

〈支出の部〉

項目	決算額	項目	決算額
前期繰越金	3,708	寄付金(わたげへ)	500,000
会費	504,000	次期繰越金	7,708
合計	507,708	合計	507,708

以上 会計 常田ちよ子



2015年度収支決算書及び関係帳簿・領収書を監査したところ、報告に相違ないことを証します。

会計監査 對比地祐子



高橋正子



皆様よりの会費等の決算につきましては上記の如くご報告申し上げます。



### 編集後記 ～編集部～



永年勤続10年  
表彰して頂きました!!  
まだまだ、笑顔一杯に頑張っ  
ていきましょうね。

編集 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 〒239-0824 横須賀市西浦賀3-13-21

TEL:046-844-0038/FAX:046-844-0036 E-mail: aaq40690@hkg.odn.ne.jp